

I's水俣会派 視察報告書

報告者 杉迫一樹

日程 令和7年7月21日（月）～23日（水）＊21日は移動日

視察場所 岐阜県岐阜市

参加者 杉迫一樹

視察の概要

- 1 子ども若者支援センター「エールぎふ」の説明
対応者 岐阜市役所 子ども未来部担当者
- 2 ぎふメディアコスモスの見学と説明
対応者 岐阜市役所 岐阜魅力づくり推進部
メディアコスモス事業課担当者
- 3 障害者の自立と政治参加をすすめるネットワーク会員による意見交換

1 エールぎふ・子どもサポート総合センター開設

① 0歳から20歳前までの子ども・若者を対象とし、縦割り組織による支援の途切れを解消。ワンストップで継続的に支援をすることを目的とした。

設置前は、悩みや不登校などを発見した後、中央子どもセンター、岐阜県警、エールぎふ、市教委の4団体で個別に協議対応していたが、設置後は、この4団体と合同受理会議で対応協議をすることで、情報の即時共有から立場の異なる機関が同時にリスク評価を行うことで適切な対応と役割分担ができるようになり、担当者の負担軽減にもなっている。

② 現状など

現代では、不登校児童生徒や自殺といった事例が増加傾向にあり、当事者が学校や保護者への相談がしやすい状況にあることを踏まえ、いつでも相談ができるよう24時間体制で電話対応を行なっている。

また、ネット関係での悩み相談も増えており相談の種類が多岐に渡っていることから、スタッフ不足は否めない。しかしながら、4団体が連携することで迅速に対応することができている。同一家族や同じ子どもからの違う相談事もある。

2 りふメディアコスモスの見学と説明

① りふメディアコスモスについて

みんなの森というキーワードの元、「知の拠点」の役割の市立中央図書館。「絆の拠点」としての市民活動交流センター、多文化交流プラザ及び「文化の拠点」となる展示ギャラリーからなる複合施設。

市民の要望により旧図書館を約119億円をかけ新設した施設で、旧図書館が来館者数、年間15万人だったのに対し、りふメディアコスモスは令和6年度には来館者数135万人と約8倍に増えている。来館者総数は、令和6年度に1000万人を達成。

無料施設として

- 多文化交流プラザ 外国や日本の文化体験、外国人市民のための生活相談
- つくるスタジオ 市民活動を行う団体のミーティングなど
- こどものへや 就学前のお子さんと保護者が遊んだり休憩できるスペース
- ドキドキテラス 展示やイベントを行える

有料貸出施設として

- みんなのホール 演劇の発表など
- みんなのギャラリー さまざまな展示ができるスペース
- かんがえるスタジオ ラジオなどの発信
- おどるスタジオ 会議やワークショップ、ダンスレッスン
- あつまるスタジオ 小規模スタジオ
- つながるスタジオ プロジェクター、ブルーレイプレーヤー、映像機材を完備

館内にはスターバックスコーヒーやコンビニも出店しており、市民の憩いの場として提供している。

② 市立中央図書館について

りふメディアコスモス2階にある図書館。

天井から吊り下げられている「グローブ」と呼ばれる大きな傘で分けられており、未就学児・小学生・中学生・高校生・大人などが専用で使えるスペースとなっている。

図書棚の高さも低くなっており、誰でも手に取りやすい。

案内板も床にわかりやすく掲示してある。点字図書も収蔵しており、棚の通路なども広く、障害がある人もない人も共に過ごすことができる。

ホームページからの貸し出し予約も可能。相談スペース、展示スペースもあり、市民がおすすめの本を紹介したり、岐阜市のおすすめスポットなどの紹介もあった。

3 障害者の自立と政治参加をすすめるネットワーク意見交換

障害者の自立と政治参加をすすめるネットワークとは、日本全国の各自治体で活動する障害のある議員を中心に、各地域の問題などを共有し、解決に向けて考え行動する会。

今回は、福岡、熊本、長崎、東京、福井、岐阜、兵庫、埼玉、神奈川、新潟などから参加。肢体不自由・視覚・聴覚障害がありながら活動する議員が集まった。全国の障害者議員は、全体の0.1%であるので、お互いの自治体の貴重な問題等を共有することができた。

ぎふメディアコスモスに隣接する岐阜市役所の議場見学もさせていただき、全面バリアフリーで、車いすであっても議長席や執行部側の通路も難なく移動することができた。

【視察感想】

エールぎふ・子どもサポート総合センターでは、近年多様化する子どもの悩み相談対応をする上で、縦割りをやめ包括的に情報共有を行い対応にあたることは非常に大切なことであると感じた。また4つの機関が共に取り組むことで、何か問題が起きた際の責任の所在であったり、業務の押し付けなどもなくなりスタッフも活動しやすい環境となっていると感じた。

メディアコスモスでは、市民の憩いの場として市民に愛されている施設だと感じた。視察した日も来館者が多く、特に学生の姿が目立った。さまざまなスペースがあるので、市民がそれぞれに活動する場としても有意義な施設であった。水俣の図書館は古く小さいので、例えばエムズの空いている階などを同じように活用することもできるのではと思った。

ネットワークの意見交換では、各地域の問題点などの報告があった。スポーツイベントのチラシに「障害のある方の参加はご遠慮ください」と書いてあることがあったや、バリアフリーの問題や差別事案など驚くこともあり、まだまだ社会の障害者への理解が足りていない部分があると感じた。

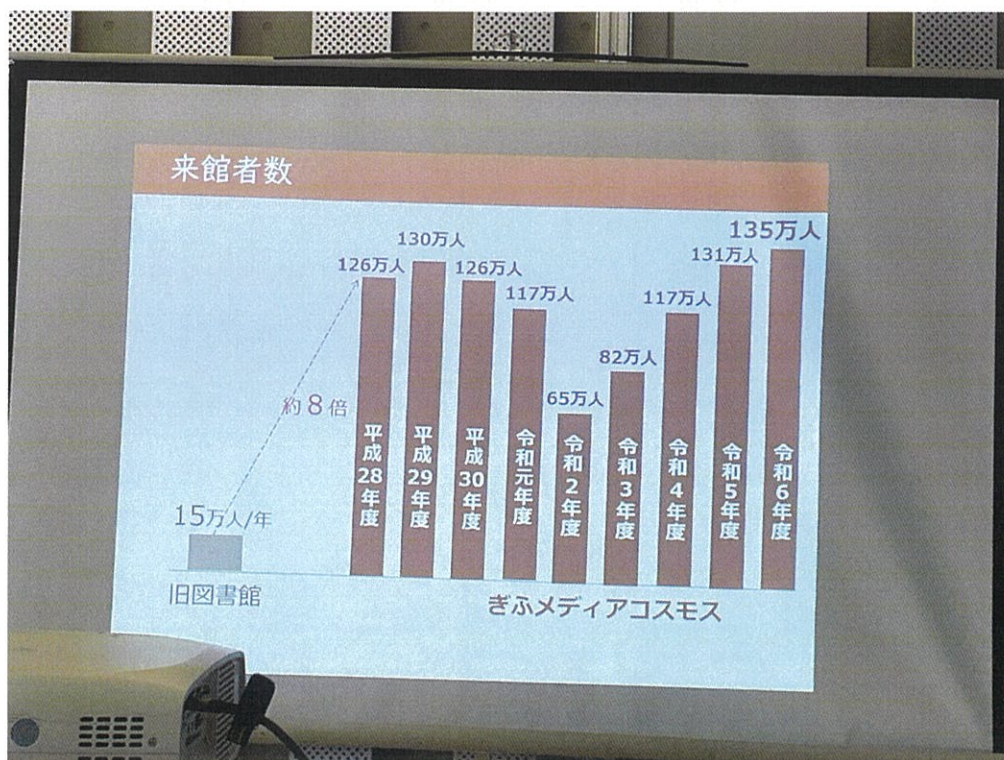
また、同じ障害のある議員として、議員活動の方法やアドバイスなどの報告もありとても参考になった。障害がありながらも奮闘する皆さんの姿に、私も頑張らなければとお尻を叩かれる思いになり、もっと福祉や障害者のことを学ばなければと思った。

【資料】

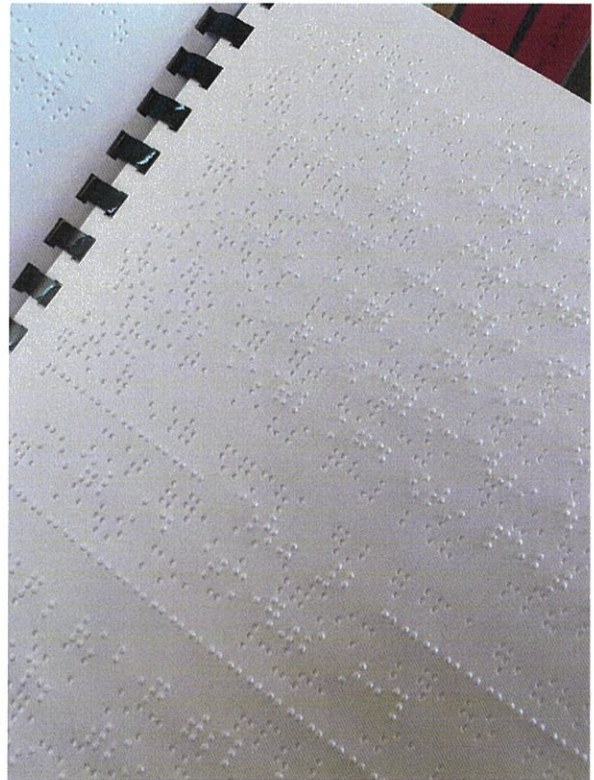
エールぎふ・子どもサポート総合センター説明

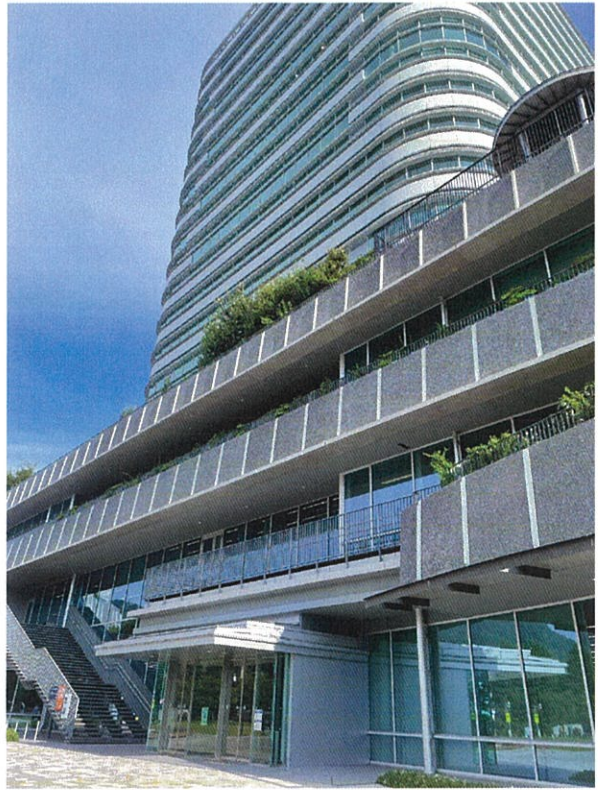


中央図書館およびぎふメディアコスモス











第21回地方議員交流研修会報告

IS 水俣 藤本寿子

2025年
10月27日(月) ホテルポールスター札幌 全体会

約200人近くの全国地方議員が大ホールに集まり全大会が行われた。来賓として、連合北海道会長 須間等 北海道農民連盟委員長（北海道和寒町町議会議長）の挨拶に続きビデオレターでしたが「日本地位協定への全国の共同を呼びかける」と題し、沖縄玉城デニー氏の熱い呼びかけがありました。

記念講演は 「令和の米騒動の教訓、食の続国から自立の国へ」

鈴木宜弘 東京大学大学院特任教授

特別報告 羽場久美子 城西国際大学特別栄誉教授

菅野芳秀 「令和の百姓一揆」実行委員代表

佐藤英行 北海道岩内町議会議員

その他問題提起があり

主催者の広範な国民連合事務局長 山本正治氏の挨拶があった。

<感想>

記念講演にあったが、食の自給率の向上という国の根幹に関する問

題がいつまでも改善しない状況は、地方議員としてあらためて共をアジアとの共生へとシフトすること。エネルギー政策の見直し、地域でいかに自給して行く取り組みを進めて行くかを改めて再考する必要があると思った。2日目の5つの分化会での真剣な議論が必要であると思い一日目を終了した。

10月28日（火）2日目 分科会報告

2日目は、札幌の北海道自治労会館で行われた。日米地位協定の問題 食糧自給、社会保障の確立、持続可能なエネルギーの地域自給をめざす等5つの分化会に分かれ議論となった。私は、第5分科会の共同座長を依頼され地域エネルギー問題の議論を進めた。

〈第5分科会 報告〉「持続可能なエネルギーの地域自給をめざして」

座長は、石川県志賀町町議 堂下健一、松戸市議 岡本ゆうこ氏と行う。夫々に現状報告と問題提起も行った。第5分化会は30名ほどの参加であった。

問題提起 「泊原発が残したこと、これから始まること」ということで佐藤英行議員から報告がある。

今現在の泊原発による経済的依存度は、1号機、2号機に関連し、雇

用の比率は増加している。しかし、原発事故があった場合の避難は困難、放射性廃棄物の問題もあり3号機の建設には、反対である。

更に、原発が故に投資と補助金もありそこから抜けだせない状況だが、いずれは、新しい町の将来を考えると時がくる。原発が廃炉になったときのことを見すえ、「原発に頼らないまちづくり」めざし学習会やシンポジウムを行っている。改めて豊富な地域資源からまちづくりを考えようと動きだしている。地場産業の活性化で人口流出をとめる。ことを考えて行きたいとの報告であった。

また、再生可能エネルギーの活用で地域内循環を考えたい。

つまり、原発からの脱却を市民が語りあうことを実践している。

いろいろ地域の現状など報告があるなか、特に現実の取り組みとして 栃木県矢板市議の「エネルギーの地域自給を目ざして」は、報告のあと、全国の議員から質問が相次いだ。

内容としては、各家庭の太陽光発電と蓄電池によるエネルギー自給化、1月から9月稼働にて、家庭消費電力の83%まかなう。

家庭全体の省エネルギー投資の推進

1 家屋の断熱性向上 2 省エネ機器転換 3 バイオマス燃料推進

地域資源を活かした再生可能エネルギーとして、太陽光、風力、小水

力、地熱発電があるが、太陽光などは、屋根上だけでない設備が開発されていること。実際に太陽光などについては、取り組みが進んでいるため、質問があいついだ。

ほかにも地域の悩み、取り組みについて報告があったが、この分科会では、原発立地自治体の今後の取り組みが論議になったのとどのような自前エネルギーをみつけて行くのかがテーマであったと思う。

〈感想〉

水俣からは、これまでの「環境政策」の取り組みを報告し、今後どのような取り組みをしたいと思うかを発言した。

会議を終わっての感想は、まずは市民のみなさんと話しあう場を持ち、研究会のようなものがないかと思った。

「愉快地にエネルギーを語る会」のような

2025年11月10日